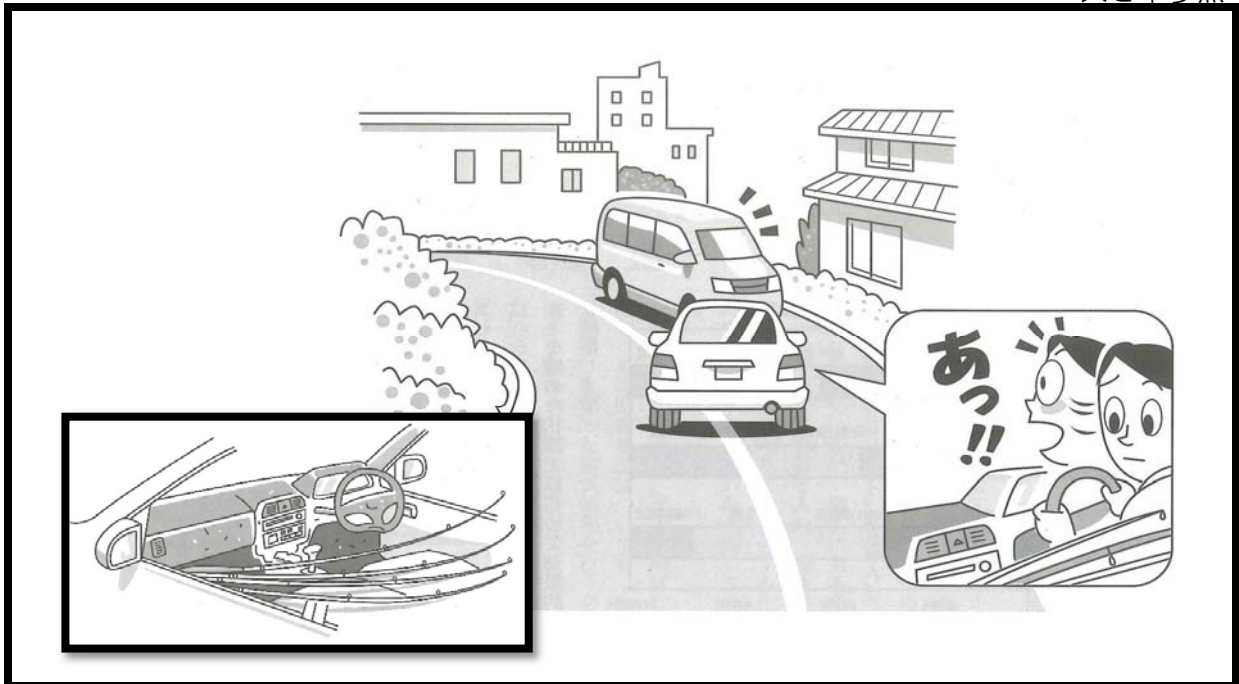


■事故の概況

人と車参照



事故類型：正面衝突

発生日時：夕方

当事者A：普通乗用車 20歳代 男性

当事者B：普通乗用車 年齢不明 女性

■ 事故の概要

Aは早朝から友人と釣りを楽しんだ後、釣り道具を無造作に車にしまって帰り道を急いでいました。友人は早起きと釣りの疲れから、シートベルトをせず助手席のシートバックを倒して寝ていました。

緩やかな左カーブに差し掛かり、運転席と助手席の間に立てかけておいた釣り竿が友人の方に倒れていくのに気づき、それを直そうと釣り竿の方に注意を向けたときA車はセンターラインを越え、対向してきたB車（ミニバン）と正面衝突しました。

■ 事故から学ぶ

運転をするときには、運転意外に意識を向ける要素を出来るだけ少なくするのが安全運転の基本です。

Aは走行中に車室内の荷物が運転や同乗者に影響を与えないように、固定をするかトランクに収納しておくべきでした。少々の手間を惜しんだために、事故を引き起こし自分を含め多くの人に重いケガを負わせてしまいました。

また、リクライニング機構は停車中に使用する機構です。助手席に乗った人が眠いと言っても、万が一のことを考えて、シートを倒したまま走行しないようにしてください。今回の場合、助手席のシートバックの角度を運転席と同じくらいにしておけば、怪我の程度はもう少し軽く済んだかものかもしれません。